排水機場訪問記

「水が語るもの」編集パートナー　梅田 和男
（近畿水管理・国土保全研究会）

巨椋池排水機場

『水が語るもの』では2020年12月発行の第21号から排水機場の役割や浸水被害軽減効果、運転管理上の課題等について読者の皆様に紹介しています。

第4回目となる今回から2回シリーズで、京都府南部の淀川三川合流域（宇治川、木津川、桂川）の内、宇治川と木津川に挟まれた巨椋池地域を対象とし、今回は巨椋池地域の排水システム及び農水省巨椋池排水機場を紹介します。

巨椋池地域（西から東を望む）の斜め航空写真
【出典】Google map ※地図に説明追加

巨椋池地域の特徴

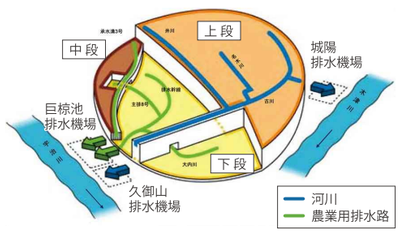
本地域には、かつては宇治川、木津川、桂川が流入する広大な遊水地（巨椋池）が広がっていました。巨椋池は、昔は大池（おおいけ）とも呼ばれ、幾多の変遷を経て、最終的には明治時代に実施された国（内務省）の淀川改良工事により宇治川から切り離され、単独の池となりました。この巨椋池は、昭和初期に我が国初の国営干拓事業（昭和7～16年度）により広大な農地に生まれ変わっています。

宇治川と木津川に挟まれた巨椋池地域は面積約53㎢で、上流丘陵地から支川古川が流れ宇治川に注いでいます。巨椋池地域の自治体は、宇治市（巨椋池東部）、城陽市（南東部木津川沿い）、京都市（北部宇治川沿い）久御山町（中央部）、八幡市（南部三川合流部付近など）です。

巨椋池干拓事業により生まれた農地は重要な食料生産拠点となっています。丘陵地部は市街化されています。また本地域は京都と大阪の間の立地条件にあるため、近年は第2京阪道、京滋バイパスなどの道路網整備が進み、大型ショッピングセンターの進出など比較的標高の低いエリアにも市街化が進んできています。

巨椋池地域の排水システム

巨椋池地域の排水システムは、標高に応じて地域を上段地域（古川流域）・中段地域（宇治川沿いの比較的標高の高い地域）・下段地域（干拓地など）の3排水ブロックに分轄し、上段古川流域の排水を国土交通省久御山排水機場と京都府城陽排水機場が、中段と下段の排水を農林水産省巨椋池排水機場が担っています。



巨椋池地域の排水システム概念図
【出典】京都府 第8回木津川・桂川・宇治川圏域
河川整備計画検討委員会資料（平成23年10月31日）

新巨椋池排水機場の概要

設置者	農林水産省
管理者	巨椋池排水機場管理協議会（京都市、宇治市、久御山町）
操作	巨椋池土地改良区
目的	農地排水
設置年	平成18年度
規模（現時点）	80m³/秒（8.0m³/秒×2台、21.33m³/秒×3台）

旧・新巨椋池排水機場（平成17年3月撮影）
【出典】巨椋池まるごと格納庫 ※写真に説明追加

column

秀吉時代の巨椋池

宇治川、木津川、桂川が流入する広大な遊水地であった巨椋池は、豊臣秀吉による伏見城築城、伏見港整備の一環として築造した槙島堤防（まきしま）（現在の宇治川左岸堤防）により上流部が宇治川と分離され、下流の淀付近で宇治川とつながっていました。

秀吉時代の巨椋池沿岸図【出典】淀川河川事務所HP

操作関係者に聞く interview

巨椋池排水機場
管理協議会 事務局長
森田 克己さん

巨椋池排水機場について、本施設を管理する巨椋池排水機場 管理協議会事務局長の森田 克己さんにお話を伺いました。森田さんは宇治市役所から協議会に派遣され、宇治市 市民環境部 農林茶業課にも在職しています。

――かつて本地域にあった巨椋池について教えて下さい

巨椋池は魚介類が豊富で、地域の食料供給源で、また蓮の花の咲く時期には蓮見舟が出るなど、洛南の景勝地でもありました。

一方、巨椋池沿岸地域は宇治川から分離された後も、大雨で地域に湛水する水が宇治川に排出できず、毎年浸水被害に悩まされていました。

巨椋池の蓮見舟（昭和5年頃）
【出典】水土の礎（一社）農業農村整備情報総合センター

――巨椋池干拓事業はどのような事業でしたか？

巨椋池干拓事業は、巨椋池の水質悪化、池周辺での疫病（マラリア）などの課題を解決するために昭和初期に我が国初の国営干拓事業として実施されました（昭和7～16年度）。

池の底であった約800haの土地は農地として生まれ変わり、戦前戦後の食糧難の時期に大きな役割を果たしました。

――巨椋池地域の排水システムはどのように作られたのですか？

現在の巨椋池地域の排水システムは昭和初期の巨椋池干拓事業により作られました。地域を標高に応じて上中下段の3排水ブロックに分割し、河川・排水路と10台の排水ポンプを備えた旧巨椋池排水機場（平成16年度末廃止）が整備されました。

――ポンプ排水はどのように実施されましたか？

平常時の上段・中段排水は標高を活かして宇治川に自然排水され、下段排水はポンプで排水されました。

宇治川洪水時は、洪水規模に応じて10台の排水ポンプを上段・中段・下段の各排水に最適に台数を割り当てて、地域の被害を最小限にする運用が実施されていました。例えば、宇治川の大規模洪水時は上段古川流域の堤防決壊・氾濫を防止するため、10台中8台の排水ポンプを上段排水に割り当てていました。

昭和48年度に建設省久御山排水機場が完成し、上段古川流域の排水を担ってもらうことになりました。

――平成18年度に完成した現在の巨椋池排水機場の役割について教えて下さい。

巨椋池地域の市街化進展、流出形態の変化による低平地部の農地湛水の増加への対応が必要になったため、老朽化の進んだ旧巨椋池排水機場を機能アップする全面改修により新設されました。

排水能力80㎥／sは旧排水機場の1・5倍以上の能力で、これにより中段・下段地域の排水を担っています。

――巨椋池排水機場の管理はどのように実施されていますか？

本排水機場の管理は京都市、宇治市及び久御山町が共同して実施しています。このための組織として平成19年3月15日に地方自治法の規定に基づき巨椋池排水機場管理協議会が設置されました。

――排水機場の効果はどうでしょうか？

旧排水機場より排水能力が向上したことにより、家屋浸水被害はかなり少なくなりました。また農地の浸水頻度も少なくなったことから、従来水田であった所がネギのハウス栽培、ホウレンソウなどの柔軟野菜や聖護院大根などの畑地栽培が行われてきています。

――排水機場運転管理上ご苦労など教えてください。

ポンプの運転は巨椋池土地改良区に委託し、3人体制のチームにより実施されています。洪水時は宇治川の水位上昇が長引き、10日ほど連続のポンプ運転が必要になっています。また、宇治川は木津川、桂川のバックウォーターの影響を受け、当地で降雨が無い時でも宇治川水位が上昇し、ポンプ運転が必要になる場合があります。

施設管理の面では、施設完成から17年ほど経過し、老朽化等により点検・修繕等の施設管理費用が増えてきています。

――色々教えて頂きありがとうございました。

参考資料　巨椋池干拓誌（昭和37年 巨椋池土地改良区）、巨椋池干拓六十年史（平成13年 巨椋池土地改良区）、水土の礎（（一社）農業農村整備情報総合センター）
パンフ 干拓から未来へ 夢を咲け 巨椋池（平成26年 巨椋池排水機場管理協議会）、巨椋池まるごと格納庫（巨椋池排水機場資料館）
京都府 第8回木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会資料（平成23年）、近畿地方整備局 淀川河川事務所HP